

## 成果の説明書

(氏名)佐藤和宏	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>今年度は、大きく3つの観点からアウトプットを行った</p> <p>①コロナ禍における居住問題・居住保障政策</p> <p>(misc)「不可視化され続ける住まいの貧困」『民医連医療』587: 46-47. (2021年8月刊行)</p> <p>(学会報告)「コロナ危機から見えてきた居住問題の課題について」第21回日本居住福祉学会大会 2021年9月18日</p> <p>(単著)「コロナショックは住宅問題にどのように現れているか——不可視化された住宅危機」『地域政策研究』24(2): 1-18. (2021年10月刊行)</p> <p>(misc)「住まいの困窮者の現実と保障の課題」『住民と自治』702: 17-19. (2021年10月刊行)</p> <p>(misc)「コロナ禍における日本の居住問題——借家市場における住宅危機に着目して」『住宅会議』113: 13-17. (2021年10月刊行)</p> <p>②東アジアという単位での居住問題・居住保障政策</p> <p>(共著)「住まいの貧困から見る日本の住宅政策」『日中韓の貧困政策——理論・歴史・制度分析』明石書店, 295-318. (2021年12月刊行)</p> <p>(共著)「借家市場と借家政策」『東アジアのグローバル地域経済学——日韓台中の農村と都市』大月書店, 226-238. (2022年3月刊行)</p> <p>③長期的課題としての日本の居住保障史および供給・管理構造</p> <p>(学会報告)「供給・管理構造から見る居住保障政策の諸論点」2021年度生活経済学会関東部会・企画セッション 2021年12月18日</p> <p>(研究会報告)「住宅資金は住宅扶助といかなる関係にあるか?——政策の推移と利用世帯の検討を中心に」二次分析研究会課題公募型研究成果報告会「戦後福祉国家成立期の福祉・教育・生活をめぐる調査データの二次分析」2022年3月18日</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>①授業</p> <p>・初年次ゼミ(1年生必修・前期)、ゼミナール(2年後期および3年生通年)、社会保障論(全学年対象・後期)、公的扶助論(3年生以上対象・前期)、住宅政策論(3年生以上対象・後期)を担当している</p> <p>②学会活動</p> <p>日本住宅会議理事(2020年1月～)</p> <p>福祉社会学会 第10期・編集委員(2021年6月～)</p> <p>③その他活動</p> <p>ラジオゼミナール出演(2021年1月14日および1月21日放送分)</p>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

①授業：講義において、レジュメおよび関連資料の作成・活用に関して、学生の意向を反映しながら学生の学びを主体的に促せるように努める

②研究：長期的に、(a)居住保障史研究に取り組む。博士論文で扱った民間借家市場の研究をさらに発展させ、東京大学社会科学研究所二次分析研究会での共同研究も併せて、戦前および戦後を通じた居住保障史の記述を行う。(b)同じく博士論文の高度経済成長期と比較する形で、現在の産業化された民間借家市場の供給・管理構造の解明を行う

③その他：ゼミナール活動の一環としてのフィールドワーク、あるいはその他にも地域に関わる・地域への貢献活動に対しても、何かしらの形で具体化していきたいと思っている